

KVK KF125(Z) (各仕様共通) 取扱説明書

■使用前にこの取扱説明書を必ずお読みの上、正しくお使いください。
この取扱説明書と施工説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、**禁止**の内容です
この絵表示は、**分解禁止**の内容です
この絵表示は、**「接触禁止」**の内容です
この絵表示は、**必ず実行していただく「強制」**の内容です

やけど、漏水 やけどをした場合は、すぐ、その箇所を水で流しながら冷やしてください。そして専門の医師の診察を受けてください。漏水した場合は元栓、または止水栓を閉めてください。ポンプをお使いの場合は、ポンプを止めてください。そして専門の業者に修理を依頼してください。

<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>小さいお子様だけの使用は避けてください。</p> <p>やけど・けがをするおそれがあります。</p>
<p>分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>キャビネット内の湯側配管は高温になっていますので直接肌を触れないでください。</p> <p>やけどをするおそれがあります。</p>	<p>漏水をお使いになる前に、必ず手で適温かどうか確かめてください。</p> <p>確かめないと高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p>
<p>温度調節ハンドルの表示で適温を確かめた後、吐水してください。</p> <p>確かめないと高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p>	<p>高温の湯をお使いの後は、必ず温度調節ハンドルの目盛を「40」以下に戻しておいてください。</p> <p>次に使用する時、いきなり高温の湯を浴び、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>高温の湯をお使いの後は、器具内に高温の湯が残らないように、しばらく水を流してから止水してください。</p> <p>次に使用する時、器具内に滞留した高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。</p>

警告

温度調節ハンドルを急に回すと、温度が急上昇することがありますので、ハンドルはゆっくり回してください。

ストレーナの滞りは止水弁又是元栓で必ず漏水を止めてから行ってください。

寒冷地仕様の場合
水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。

器具が破損し、けがをしたり、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

配管などの解放のため解体機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。

通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

注意

器具に乗ったり、よいかかりして無理な力を加えないでください。シャワーヘッド先端に重いものを下げたり、力をかけて回さないでください。

器具が破損し、けがをしたり、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

吐止水レバー操作の急停止は、配管からの漏水を起こすことがありますので、ゆっくり操作してください。

ゆっくり操作しないと漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワースタンドの開口部へ直接漏水をかけないでください。

漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。

めっき仕様の場合
めっき部品は、ぶつたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万が一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

水抜きしないまま凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

修理のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

水栓の品番をご確認ください
水栓に貼ってある品番シールをご確認ください。シールの左下が品番です。(シールの貼付位置は「各部の名称」をご覧ください)

KVK修理受付センター TEL 0120-474-161
上記フリーダイヤルは携帯電話からはご利用になれません。携帯電話からは058-234-8946をご利用ください。
受付時間/平日 9:00~18:30 土・日・祝日 9:00~17:00

技術料金は技術料+部品代+出張料で構成されています
【診断・故障箇所の修理及び部品交換・調整・修理完了時の点検等の作業にかかる費用】
部品代...修理に使用した部品代
出張料...製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用

株式会社KVK
本社・工場/〒501-1195岐阜市黒野308/TEL058-239-3111 代表
インターネットホームページ <http://www.kvk.co.jp/>

ご使用の前に / ご使用方法

給湯機の使用上のご注意

- 給湯機の給湯温度は、必要とする吐水温度より10℃以上高くしてください。なお、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- 吐止水レバーは、できるだけ全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。(瞬間型の場合)
- 吐止水レバーを全開にすると吐水量が多すぎる場合は、止水弁であらかじめ流量調節を行ってください。(それでも給水圧力が高く、吐水量が多すぎる場合は吐止水レバーで調節を行ってください)
- 給水圧力が低い時や水温が高い時は、給湯機が着火しにくくなる場合があります。その場合は給湯機の設定温度を少し下げてください。(瞬間型の場合)

各部の名称

シャワーヘッド、シャワースタンド、吐水切り換ボタン、吐止水レバー、温度調節ハンドル、品番シール(背面)、本体、シャワーホース、ストッパー解除ボタン、逆止水、ストレーナ、湯側止水弁、止水栓、ストレーナ、水側止水弁

寒冷地仕様

水抜きユニット、水抜き栓、止水栓、水抜き栓付ストレーナ

温度調節方法

温度調節ハンドルの目盛をポイント(グレー)に合わせます。目盛「40」を目安にしてください。高温に回しますと、目盛「40」を少し過ぎたところで一度温度調節ハンドルが止まります。(温度:約42~45℃) それ以上の高温を出すときは、ストッパー解除ボタンを押しながら回してください。使用後は目盛「40」以下に戻してください。

【注意】
目盛は、温度表示ではありません。
目盛は、温度調節の目安としてください。

温度調節ハンドル (低温、高温)

ストッパー解除ボタン、ポイント(グレー)

吐止水方法

吐水 吐止水レバーを右へ回すと吐水します。

止水 吐止水レバーを左いっぱいまで回すと止水します。

【警告】
湯水をお使いになる前に、必ず手で適温かどうか確かめてください。確かめないと、高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

【注意】
吐止水レバーはゆっくり操作してください。急な操作はウォーターハンマー(水撃音)が発生し、漏水の原因となります。

【通水音が大きい場合】
吐止水レバーを使用する際に通水音が大きい場合は、湯水の止水弁をしぼって吐止水レバーを全開にして使用してください。(流量の調節方法 参照)

止水時の水滴について
止水した時、シャワーヘッドから水滴が落ちることがありますが、これはシャワーホース内の残留水です。異常ではありません。

吐水の切換方法

吐水切り換ボタンの右を押すとストレート吐水、左を押すとシャワーになります。

吐水切り換ボタン、ストレート吐水、シャワー

シャワーヘッドの使用方法

シャワーヘッドは引き出して使えます。使用後はシャワーフェイスが下向きになるようにはめ込んでください。

上にあげた時はカチッ、カチッとクリック感があります。

引き抜くようにシャワースタンドを持ち上げます

引き出せます、下向きにはめ込む、シャワーフェイス

【注意】
シャワーヘッドを引き出しすぎないでください。ホースが戻りやすくなり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

【注意】
シャワースタンドの開口部へ直接湯水をかけないでください。漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。

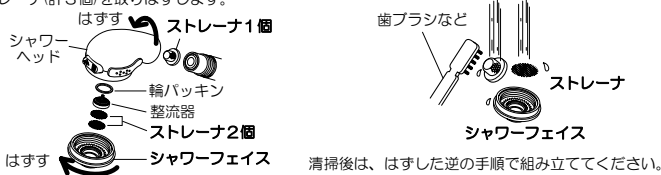
【注意】
シャワーヘッドやホースを水に浸けたまま放置しないでください。水が逆流するおそれがあります。

日常のお手入れ・保守

シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ清掃

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナが詰まると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、定期的に清掃してください。
 ① シャワーヘッドの根元とシャワーフェイス内のストレーナ(計3個)を取りはずします。



止水栓のストレーナ清掃

止水栓のストレーナにゴミが詰まると、吐水量が減ったり、希望する湯温にならない場合がありますので、定期的に清掃してください。
【△ 警告】 ストレーナの清掃は、止水弁又は元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。ストレーナをいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
 ・湯側止水栓の中には熱湯が溜まっている場合がありますので、操作の際はやけどをしないように注意してください。

- 湯水の止水弁【2カ所】又は元栓をしっかり締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
- (寒冷地仕様のみ) 水抜き栓をはずします。
- 湯側・水側のストレーナ【2個】を取りはずします。
- ゴミ・水アカ等を洗い流します。

一般地仕様

寒冷地仕様

清掃後は上記の逆の手順で組み込んでください。ストレーナを締め込む時、吐水レバーを吐水状態にしてください。

お手入れ方法

【軽い汚れの場合】
 汚れは柔らかい布やスポンジで洗いしてから、乾いた布で拭き取ります。

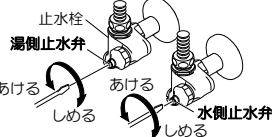
【ひどい汚れの場合】
 中性洗剤をぬるま湯ですすめて、やわらかい布で汚れを拭き取ってから、乾いた布で拭き取ります。

【使ってはいけないもの】
 水栓には樹脂部品が多く使用されているため、シンナー・アセトン・ベンジン・カビトリ剤・酸性・アルカリ性系・塩素系洗剤等は使わないでください。金たわし・みがき粉等は外観にキズが入るおそれがありますので、使わないでください。

【お願い】 メラミンフォームを使用する場合は、文字やマーク等印刷部分をこすらないようにしてください。

流量の調節方法

流量の調節は右記の方法で行ってください。



図は一般地仕様です

温度調節ハンドルの設定方法

工場出荷時に温度調節をしていますが、取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならない場合があります。温度調節ハンドルの目盛が吐水温度とズれている場合、温度調節ハンドルの目盛を直してください。

【はじめに確かめてください】

- 止水弁を全開にしているか確かめてください。
- ストレーナにゴミが詰まりがいないか確かめてください。
- 給湯温度(60℃以上)の湯が給湯できているか確かめてください。※ 推奨温度は約60℃です。

- 全開吐水で目盛に関係なく40℃のお湯が出る所まで、温度調節ハンドルを回します。
- キャップとビスをはずし、温度調節ハンドルを回転させないように取りはずします。
- ポイント(グレー)にストッパー解除ボタンを合わせて温度調節ハンドルをはめます。
- ビスでハンドルを固定し、キャップをはめます。

【お願い】 取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。
【△ 注意】 目盛は、温度表示ではありません。目盛は、温度調節の目安としてください。



定期的な点検

安全・快適にご使用いただくために、定期的な点検をおこなってください。

水受けトレイ (1ヶ月に1回)

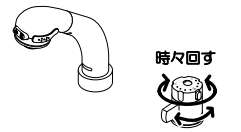
水受けトレイの設置をしてください。水受けトレイは、シャワーヘッドを引き出してお使いの場合にシャワーホースを伝って落ちる水を受けるためのものです。(水受けトレイがない場合は、別途お求めいただけます) トレー内に水が溜まっていけないか確認してください。溜まっている場合は水を捨ててください。念のため、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



温度調節ハンドルの操作性 (1ヶ月に1回程度)

【△ 注意】 時々温度調節ハンドルをいっぱい回してください。温度調節ハンドルを長期間回さずに使用すると機能部に水垢などが付着し、温度調節機能が損なわれるおそれがあります。

【吐水レバーの操作性】
 時々吐水レバーをいっぱい回してください。吐水レバーを長期間回さずに使用すると機能部に水垢などが付着し、吐水機能が損なわれるおそれがあります。



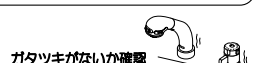
配管まわりの水漏れ (1ヶ月に1回程度)

【△ 注意】 配管まわり(キャビネット内)の水漏れがないか確認してください。部品の劣化・磨耗などによって生じる漏水で、家財などを濡らす財産損害発生を未然に防止するために、配管まわりの点検をおすすめします。



水栓のガタツキ (1ヶ月に1回程度)

水栓のガタツキがないか確認してください。ガタツいたまもお使いになると、配管に負担がかかり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



水抜き方法<凍結が予想される場合>

【△ 警告】 凍結が予想される際は、下記の手順に従って水栓金具の水抜きを行ってください。怠りますと、凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

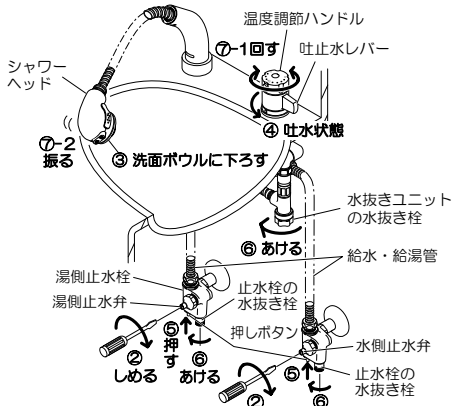
寒冷地仕様水栓の場合

器具のみ水抜き (配管に水抜き栓がない場合)	配管からの水抜き (配管に水抜き栓がある場合)	操作
②	①	配管の水抜き栓を操作します。(給水元の水抜き栓の操作)
③	③	湯水の止水栓の止水弁(2カ所)を締めます。
④	④	シャワーヘッドを洗面ボウルに下ろします。
⑤	⑤	吐水レバーを吐水状態にします。
⑥	⑥	湯水の止水栓の押しボタン(2カ所)を押して水を抜きます。(ボタンは過水時に自動復帰します)。
⑦	⑦	水抜きユニットの水抜き栓(1カ所)と、湯水の止水栓の水抜き栓(2カ所)を開けて水を抜きます。
		温度調節ハンドルを「H」に回して水を抜き、「C」に回して水を抜きます。シャワーヘッドを振って中の水を抜きます。

【△ 警告】

・湯側の止水栓の中には熱湯が溜まっている場合がありますので、操作の際はやけどをしないように注意してください。

・解水機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



水抜き後 通水を再開する

【お願い】 必ず水抜き栓がしまっていることを確認して、吐水レバーを吐水状態にしてから通水してください。通水を再開しても水が出ない場合……吐水レバーを吐水状態にして、しばらくお待ちください。これは水栓内に残った水滴が凍りついて起こる現象です。異常ではありません。

一般地仕様水栓の場合

凍結が予想される場所でご使用になる場合は、以下の処置によって凍結を予防できる場合があります。
 ・水栓より少量の水を出しておきます。 ・配管部などに布を巻きます。

【△ 警告】 解水機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

定期的な部品交換 (部品是水栓の種類によって異なります)

使用年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
お客様による日常のお手入れ・点検	—											
消耗部品の交換 (ごまパッキン等)	—											
磨耗劣化部品の交換	—											
部品交換	部品が磨耗・劣化すると水漏れ等の原因になりますので、交換が必要です。 ・磨耗・劣化部品の例 (水栓の種類によって異なります) 例) カートリッジ、シャワーヘッド、シャワーホース、逆止弁等											
【△ 注意】	中でもより安全のため、逆止弁は早めの点検・交換を行ってください。逆止弁が正常に機能しないと、状況によっては一度吐水した水が逆流するおそれがあります。 (逆止弁の位置は「各部の名称」をご確認ください。逆止弁は仕様により付いていないものがあります) 部品交換のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。											
補修部品の供給期間	この製品の補修用部品 (機能維持に不可欠な部品) の供給期間は製造中止後10年です。											

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度確かめてください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
湯水が止まらない	止水直後シャワーヘッドから落ちる水漏れは、シャワーヘッド内の残留水です。故障ではありません	—	—
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますがシャワーフェイス・ストレーナにゴミ等が詰まっていますか ガス給湯機と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか シャワーフェイス・ストレーナは凍っていませんか	止水弁を開ける シャワーフェイス・ストレーナを清掃する ガス給湯機の能力を適正能力にセットする シャワーフェイス・ストレーナに凍る湯水をかける	5ページ「流量の調節方法」 5ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	5ページ「流量の調節方法」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか 必要とする吐水温度より、給湯機の給湯温度を10℃以上上げる 湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける 止水弁を開ける	5ページ「流量の調節方法」 5ページ「流量の調節方法」
温度調節がうまくできない	給湯機から十分な湯がきていますか シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等が詰まっていますか 温度調節ハンドルの設定は合っていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する シャワーフェイス・ストレーナを清掃する 温度調節ハンドルの設定を確認する	— 5ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」 6ページ「温度調節ハンドルの設定方法」
吐水が飛び散る	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等が詰まっていますか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	5ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」
シャワーの吐水状態が不安定	熱源の温度を下げ (約60℃)、水側止水弁をしほることにより、改善される場合があります	—	—

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】

【△ 注意】 修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。